

# Karṇakagomin が言及する *Caturbhaginītantra* について

徳 重 弘 志

## 1. 問題の所在

仏教論理学者である Dharmakīrti (紀元後 600-660 年頃) は、*Pramāṇavārttikasavyvrtti* (以下 PVS) において、*Ḍākinītantra* と *Bhaginītantra* という經典に言及している。また、以下の記述から、それらには殺生、偷盜、性交、卑しい行為などが説かれていたことが理解できる<sup>1)</sup>。

na | dharmaviruddhānām api krauryasteyamaithunahīnakarmādibahulānām ḍākinībhaginītantrādiṣu darśanāt<sup>2)</sup>

これに関連して、Sanderson (2001, 11-13 n. 10) は、Dharmakīrti がここで言及しているのはアートマンの教義 (ātma-darśana) を持つ者たちの經典だと指摘した上で、Davidson (1981, 8 n. 21) による *Ḍākinītantra* と *Bhaginītantra* とが仏教經典であるという説<sup>3)</sup> を批判し、シヴァ派の經典という説を提唱している。Sanderson 氏の主張の根拠となっているのは、PVS における仏教と非仏教のマントラ儀軌に殺生や性交やアートマンの教義が説かれているという記述である。

tathā hi buddhetarayor mantrakalpayor hiṃsāmaithunātmadarśanādayo 'nabhyudaya hetavo 'nyathā ca varṇyante<sup>4)</sup>

さて、Karṇakagomin (紀元後 9-10 世紀) は、PVS に対する注釈書である *Pramāṇavārttikaṭīkā* (以下 PVT) の中で、上掲の引用文における *Bhaginītantra* を、*Caturbhaginītantra* (四姉妹のタントラ) と言い換えている。

ḍākinībhaginītantrādiṣu darśanāt | ḍākinītantrant caturbhaginītantrant, ādiśabdāc cauryahetuṣu kambukinītantrādiṣu darśanāt<sup>5)</sup>

本稿では、これまで現存が確認されていなかった *Caturbhaginītantra* のテキストが、*Śrīparamādyā* (D nos. 487-488; P nos. 119-120. 『理趣広経』, 以下 ŚP) に挿入されていることを指摘した上で、その内容について検討を行う。

## 2. *Caturbhaginītantra* という表題

先行研究のうち、上掲した PVT における *Caturbhaginītantra* に言及しているのは、木村 (1990)、生井 (1993)、Sanderson (2001) である。紙幅の都合上、本稿では代表的な先行研究である Sanderson (2001, 11-13 n. 10) の概要のみを説明する。同氏は、シヴァ派において「四姉妹」といえるのは Tumburu 神の四人の妹 (Jayā, Vijayā, Ajitā/Jayantī, Aparājītā) のみであることから、Kāṇḍakagomin が言及した *caturbhaginī* とはそれら四人の女神のことであると指摘している。その上で同氏は、シヴァ派の文献には *Vijayātantra* や *Ajitātantra* という散逸した経典に言及するものが存在することを根拠として、それらの女神に関する経典の総称が *Caturbhaginītantra* であると主張している。しかし、当該の論文では、シヴァ派の文献において *Caturbhaginītantra* という語句が用いられている具体的な証拠は提示されていない。

そこで筆者は、上掲した PVS の記述 (仏教と非仏教のマントラ儀軌に性交などが説かれている) に着目し、*Bhaginītantra* (Tib.: *Sring mo 'i rgyud*) や *Caturbhaginītantra* (Tib.: *Sring mo bzhi 'i rgyud*) という語句の有無を仏教経典を対象として網羅的に調査した。その結果、ŚP (7世紀前半頃)<sup>6)</sup> の中に *Sring mo bzhi 'i rgyud* (\**Caturbhaginītantra*) という一節 (D no. 488, *ta* 221v1-222r2; P no. 120, *ta* 230v1-231r2)<sup>7)</sup> が存在することが判明した。

前掲した PVT の記述に従えば、Kāṇḍakagomin が言及する経典は *Caturbhaginītantra* という表題であり、四姉妹や性交に関する内容を有している。そこで、*Sring mo bzhi 'i rgyud* における四姉妹や性交という要素について、順に検討を行うことにする。

## 3. 四姉妹の構成

*Sring mo bzhi 'i rgyud* は、その第4偈<sup>8)</sup> に記されているように、心呪、マンダラ (第5~7偈)、誓戒 (第11偈) という3つの要素から構成されている。四姉妹の名称に関しては、第7偈に次のように記されている。

skal bzang lag na ral gri mtshon || sring mo phub can zhi ba mo ||  
phag mo lag na gter nyid de || grub pa mo ni bsnyems dang bcas || [7]<sup>9)</sup>

このように、*Sring mo bzhi 'i rgyud* における四姉妹の名称は、東が sKal bzang、南が Zhi ba mo、西が Phag mo、北が Grub pa mo である。ここで問題となるのは、ŚP

にはサンスクリット写本が現存しておらず、当該箇所に関しては漢訳も欠落しており、その上、Ānandagarbha (紀元後9-10世紀) が著した *Śrīparamādyañikā* (D no. 2512; P no. 3335. 以下 ŚPT) でも当該のマンダラに対する注釈は省略されているので、チベット語訳のみでは四姉妹のサンスクリット名を知ることができないという点である。

ŚP は、「般若分」(大樂金剛不空三昧耶)、「真言分・大樂金剛秘密」, 「真言分・吉祥最勝本初」という段階的に成立した3編が後代に一つに統合された經典であり、それらの3編には各々、四姉妹に関するマンダラや儀礼が説かれている<sup>10)</sup>。そのため、「真言分・吉祥最勝本初」に属する *Sring mo bzhi'i rgyud* における難読箇所については、先行する2編における関連箇所が手掛かりとなる。「般若分」に属する「外金剛部の儀軌」における四姉妹のマンダラや儀礼 (D no. 487, *ta* 172r3-v2; P no. 119, *ta* 177r5-v3) には漢訳が存在し、以下のように四姉妹のサンスクリット名が音写されている。

'di lta ste **dga' ba mo** ni shar du lta ba | mda' dang gzhu thogs pa la brtson pa | sgeg mo mdog dmar ba'o ||  
**gsod ma** lho phyogs su lta ba lag na ral gri dang phub thogs pa mdog nag po'o || **phag mo** nub tu lta ba  
 lag na gser gyi gter thogs pa | gser gyi mdog can no || **grub pa mo** zhi ba mo zhes bya ba byang du lta ba |  
 lag na gri dang | sha ka ra thogs pa mdog dkar mo'o ||<sup>11)</sup>

東位囉囉尼其身紅色手持弓箭。南位摩囉尼其身黑色手持利劍及契吒哥。西位唵囉唵其身金色手持寶藏。北位悉提迦尸其身白色手持撈沙迦及刀<sup>12)</sup>。

梶尾 (1982, 352, 357) が指摘しているように、以上の記述から四姉妹の名称を選定することができる。すなわち、東が \*Rati (囉囉尼, dGa' ba mo), 南が \*Māraṇī (摩囉尼, gSod ma), 西が \*Vārāhī (唵囉唵, Phag mo), 北が \*Siddhikāśī (悉提迦尸, Grub pa mo) である。このように、*Sring mo bzhi'i rgyud* と「外金剛部の儀軌」とにおける四姉妹は、持物がほぼ共通しており、西と北に位置する女神の名称も一致していることから、同一の構成であると判断することができる。

ここで問題となるのは、ŚP における四姉妹 (\*Rati, \*Māraṇī, \*Vārāhī, \*Siddhikāśī) は、シヴァ派における Tumburu 神の四人の妹 (Jayā, Vijayā, Ajitā/Jayantī, Aparājītā) とは構成が異なるという点である<sup>13)</sup>。ここで考慮すべきなのは、先述したように PVT が言及する經典には、性交に関する内容が含まれているという点である。Tumburu 神の妹達は、その名称の意味 (勝利する女, 征服されない女) から判断して、いずれも戦闘的な女神であり、性交を主題とした儀礼の対象に相応しいとは考え難い。これに対して、ŚP における四姉妹のうち \*Rati という女神は、性愛を司る Kāma 神

の後であり、当該の儀礼の対象としては妥当な配役だと判断することができる。

#### 4. ヨーガの三摩地

ŚPにおける四姉妹に関するマンダラや儀礼には、\*Ratiという女神は登場するものの、性交を伴う儀礼については記されていない。そこで、ŚPTを確認したところ、「第一のヨーガの三摩地」と「第二のヨーガの三摩地」に関する説明の中で、ŚPにヒンドゥー教の行者たちの修法が取り込まれていることが示唆されていた。この点について、以下で詳細に検討を行う。

第一に、ŚPTに従えば、ŚPにおける *Sring mo bzhi'i rgyud* は、その直前に存在する *'Jig rten gsum 'byin pa'i rgyud* (三界〔主〕を出生するタントラ) という一節と密接に関連している。*Sring mo bzhi'i rgyud* の第1~2偈に対する ŚPTによる注釈では、*'Jig rten gsum 'byin pa'i rgyud* における三界主とは「三兄弟」(Brahman, Śiva, Viṣṇu)<sup>14)</sup>を指し、そのマンダラ儀礼では「第一のヨーガの三摩地」(*dang po'i sbyor ba'i ting nge 'dzin*) が「三兄弟の行者たちのヨーガの修習によって」(*ming po gsum gyi rnal 'byor ba rnams kyi yang dag par sbyor ba'i sgom pas*) 成就されると解説されている。このように、ŚPにはヒンドゥー教の行者たちの修法が取り込まれている。

de ltar 'jig rten gsum 'byin pa'i rgyud gsungs nas | da ni de nas zhes bya ba la sogs pa **sring mo bzhi 'byin pa'i rgyud** gsungs pa yin no || de nas zhes bya ba'i sgra ni de ma thag pa ste | dang po'i sbyor ba'i rjes thogs nyid la'o || 'dir **dang po'i sbyor ba'i ting nge 'dzin** ni **ming po gsum gyi dkyil 'khor** las bshad pa nyid yin no ||

kun tu chags dang zhe sdang rmongs || brtan par byed pa'i rgyu yin no || [2AB]

zhes bya ba ni **ming po gsum gyi rnal 'byor ba rnams kyi yang dag par sbyor ba'i sgom pas** 'di dag sgrub pa'o || de ltar kun tu chags pa dang zhe sdang dang gti mug ste ming po gsum gyi rang bzhin 'di rnams kiyis brtan par byed pa'i rgyu yin no ||<sup>15)</sup>

第二に、「般若分」の四姉妹の箇所に対する ŚPTによる注釈では、四姉妹のマンダラ儀礼において「第二の〔ヨーガの〕三摩地」(*ting nge 'dzin gnyis pa*) が行われると解説されている。この三摩地に関しては、先述した「第一のヨーガの三摩地」が「三兄弟の行者たちのヨーガの修習によって」成就されるものであったことから、それと同様に、ヒンドゥー教の行者たちのヨーガの修習によって成就されるものだと推定することができる。

de ltar **ming po gsum gyi rtog pa** des 'dul ba'i sems can rnams las brtsams te gsungs nas | da ni sring mo bzhis 'dul ba'i sems can nyid las brtsams te | **sring mo bzhi'i rtog pa** bshad pa'i phyir | de nas zhes bya ba

la sogs pa gsungs so || 'dir dang po'i sbyor ba'i ting nge 'dzin ni ming po gsum gyi dkyil 'khor du gsungs pa nyid gzung bar bya'o || da ni de nas zhes bya ba la sogs pa gnyis pa gsungs pa yin la | de nas zhes bya ba'i sgra ni de ma thag pa ste | **dang po'i sbyor ba'i rjes thogs nyid la** zhes bya ba'i don to || sring mo bzhis zhes bya ba nas ham zhes bya ba'i bar gyi bshad pa ni go bar zad do || 'di dag gis ni **ting nge 'dzin gnyis pa** bshad pa yin no ||<sup>16)</sup>

このように、*Sring mo bzhi'i rgyud* はヒンドゥー教の文献として成立し、後に ŚP に組み込まれたと判断することができる。そのため、性交を伴う儀礼については、成立した当初には記されていたが、仏教経典に挿入される際に隠されたという可能性が存在する。

## 5. 結論

本稿では、*Caturbhagināntra* のテキストが *Śrīparamādyā* に挿入されていることを指摘した上で、その内容について検討を行った。ŚP における当該箇所には、ヒンドゥー教に由来する四姉妹が登場している。また、ŚPT による注釈に従えば、四姉妹のマンダラ儀礼では「第二のヨーガの三摩地」をヒンドゥー教の行者たちのヨーガの修習によって成就することになっている。このように当該の一節は、*Sring mo bzhi'i rgyud* (\**Caturbhagināntra*) という表題であり、四姉妹に関する内容を有し、ヒンドゥー教から取り込まれたものである。つまり、ŚP における当該箇所は、性交に関する直接的な記述が存在しないことを除けば、PVT が言及する経典の特徴を満たしている。そのため、PVS における *Bhagināntra* という語句を注釈する際に、Karṇakagomin が *catur* という語句を付加した要因は、ŚP における *Sring mo bzhi'i rgyud* という一節を念頭に置いていたからだと推定することができる。さらに、Dharmakīrti の在世時には ŚP は成立していたと考えられるため、Karṇakagomin による当該の注釈が妥当であるとすれば、Dharmakīrti が ŚP を参照していた可能性も存在する。

1) 生井 (1993, 9) や Sanderson (2001, 12 n. 10) が指摘しているように、PVT (*Sāmkṛtyāyana* 1982, 578 ll. 13-16) では、*Dākinīntra* が殺生と、*Bhagināntra* が性交と、それぞれ関連づけられている。2) Gnoli (1960, 163 ll. 3-5)。なお、Sanderson (2001, 11-12 n. 10) には、当該箇所の英訳が存在する。3) 先行研究のうち、木村 (1990) も *Dākinīntra* と *Bhagināntra* を仏教経典として捉えている。他方、生井 (1993) は経典の所属についての判断を保留している。4) Gnoli (1960, 123 ll. 22-24)。なお、Sanderson (2001, 12 n. 10) には、当該箇所の英訳が存在する。5) *Sāmkṛtyāyana* (1982, 578 ll. 7-9)。なお、Sanderson (2001, 12 n. 10) には、当該箇所の英訳が存在する。また、Sanderson 氏に従って、当該の引用文における *ādisabdāt* を *ādisabdāc* に修正した。6) 徳重 (2013) で指摘したよう

に、ŚP では「真言分・大楽金剛秘密」よりも「真言分・吉祥最勝本初」の方が時代的に遅れて成立している。さらに、7世紀中頃に成立したと目されている *Sarvatathāgatatattva-saṃgraha* (『真実撰経』) は、「真言分・吉祥最勝本初」よりも後に成立したと考えられる。そのため ŚP は、7世紀前半頃には何らかの形で成立していたと推定することができる。

7) 紙幅の都合上、当該箇所全体の校訂テキストの提示は、稿を改めることにしたい。

8) D no. 488, *ta* 221v3-4; P no. 120, *ta* 230v3-4. 9) D no. 488, *ta* 221v5; P no. 120, *ta* 230v5. 10) 徳重 (2015) における通番に従えば、「般若分」では「I-12」に、「真言分・大楽金剛秘密」では「II-7」に、「真言分・吉祥最勝本初」では「III-13」(*Sring mo bzhi'i rgyud*) に、四姉妹に関する記述が存在する。 11) D no. 487, *ta* 172r5-6; P no. 119, *ta* 177r6-v8; 密教聖典研究会 (2018, 136). なお、梶尾 (1982, 357) には、当該箇所の和訳が存在する。 12) T no. 244, 8: 797a19-22. 13) 梶尾 (1982, 352-358) が指摘しているように、仏教經典には Tumburu 神の四人の妹はしばしば登場するが、ŚP における四姉妹は一般的ではない。 14) 三兄弟に関しては、梶尾 (1982, 344-350) を参照。 15) D no. 2512, *i* 5r4-7; P no. 3335, *li* 5v3-6. 16) D no. 2512, *si* 236v6-237r2; P no. 3335, *yi* 291r1-4.

#### 〈一次文献〉

*Pramāṇavārttikaṭīkā* by Kaṇṣakagomin (= PVT): *Kaṇṣakagomin's Commentary on the Pramāṇavārttikavṛtti of Dharmakīrti*. Ed. Rāhula Sāṃkṛtyāyana, 1943. Reprinted, Kyoto: Rinsen Book, 1982.

*Pramāṇavārttikasvavṛtti* by Dharmakīrti (= PVS): *The Pramāṇavārttikam of Dharmakīrti: The First Chapter with the Autocommentary*. Ed. Raniero Gnoli. Roma: Istituto Italiano per il Medio ed Estremo Oriente, 1960.

#### 〈二次文献〉

木村俊彦 1990 「ダルマキールティのマントラ論」『印仏研』39(1): 415(91)-411(95).

梶尾祥雲 (1930) 1982 『理趣経の研究』臨川書店。

徳重弘志 2013 「『理趣広経』における灌頂について」『印仏研』61(2): 964(95)-960(99).

——— 2015 「『理趣広経』「真言分」のブダク写本について——資料編——」『高野山大学密教文化研究所紀要』28: 62(147)-44(165).

生井智紹 1993 「Dharmakīrti: *Svavṛtti* ad *Pramāṇavārttika* I 308 ——Dharmakīrti の言及する密教儀礼について——」『密教学研究』25: 1-27.

密教聖典研究会 2018 「*Śrīparamādyā* 校訂テキスト——第12章・第13章・第14章——」『大正大学総合佛教研究所年報』40: 123-143.

Davidson, Ronald M. 1981. "The Litany of Names of Mañjuśrī: Text and Translation of the *Mañjuśrīnāmasaṃgīti*." In *Tantric and Taoist Studies in Honour of R. A. Stein*, vol. 1, ed. M. Strickmann, 1-69. Bruxelles: Institut belge des hautes études chinoises.

Sanderson, Alexis. 2001. "History through Textual Criticism in the Study of Śaivism, the Pañcarātra and the Buddhist Yoginītantras." In *Les Sources et le temps: Sources and Time*, ed. F. Grimal, 1-47. Pondicherry: Institut français de Pondichéry/École française d'Extrême-Orient.

〈キーワード〉 Kaṇṣakagomin, *Pramāṇavārttikaṭīkā*, *Śrīparamādyā*, *Caturbhaginītantra*  
(高野山大学密教文化研究所専任研究員, 博士(密教学))